

消防救急デジタル無線共通仕様書準拠

携帯型受令機

# DJ-XF7

携帯型受令機内蔵車載キット

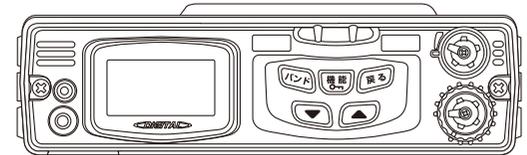
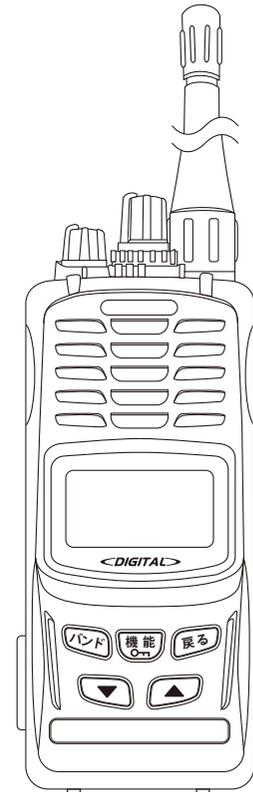
# DR-XF7B/N

B:電池パック内蔵/N:なし

携帯型

車載キット

## 取扱説明書



**⚠ 注意** 本書の公開や放置、不用意な廃棄やコピーを禁ず。

本機の性能を十分に発揮させるために、本書を最後までお読みください。また、読み終わった後も必ず保管してください。補足シートや正誤表が入っている場合は、本書と合わせて保管してください。

- 本書の説明用イラストは、実物とは状態や形状が異なる場合があります。
- 本書の内容の一部、または全部を無断転載することは禁止されています。乱丁・落丁はお取り替え致します。
- DR-XF7B/N は共通仕様書に準拠するDJ-XF7 を内蔵する車載キットで、2波同時・ダイバーシチ受信や、防沫対応ではありません。

製造元：

**ALINCO アルインコ株式会社 電子事業部**

東京営業所 〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目3番4号 日本橋プラザビル14階 TEL.03-3278-5888  
 大阪営業所 〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目4番9号 淀屋橋ダイビル13階 TEL.06-7636-2361  
 福岡営業所 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号 第3博多儲成ビル7階 TEL.092-473-8034

\*使用方法、保守・点検などアフターサービスに関するお問い合わせは、まず、本製品を管理される自治体組織の通信機器担当者様にご相談ください。弊社営業所に直接お電話頂きましても、納入時の設定や保守契約の内容など、すぐに分かりかねることがあるためです。ご理解の程、お願い致します。  
 \*管理上大きな支障を来しますので、全ての銘板、ラベル類は絶対に剥がしたり、貼り替えたり、意図的に汚したり、印字を消したりしないでください。

販売元：



株式会社エクセリ  
 (代理店届出番号C1909977)  
 東京都中央区日本橋浜町2-30-1 /  
 大阪府大阪市中央区久太郎町1-9-5  
 お問い合わせ総合ダイヤル 03-3662-0551  
 URL:<https://www.exseli.com/>

PS0771B  
 FNEG-NE

# ◆◆◆ 目 次 ◆◆◆

目次 .....	2
使用前のご注意 .....	4
1. 携帯型受令機をお使いになる前に .....	6
付属品の確認 .....	6
付属品の取り付け方 .....	7
2. 各部の名前と機能 .....	11
3. 基本操作 .....	13
4. 受信機能 .....	15
音声受信 .....	15
ショートメッセージの受信 .....	16
発信規制信号 .....	17
5. セットモード .....	18
セットモード一覧 .....	18
運用設定 .....	19
録音開始／停止 .....	19
機能設定 .....	20
履歴表示 .....	22
FMラジオ .....	22
情報表示 .....	23

<b>6. 便利な機能</b> .....	<b>24</b>
チャンネルスキャン .....	24
キーロック .....	24
電池残量アイコン .....	24
チャンネルストッパー .....	25
<b>7. 車載キットをお使いになる前に</b> .....	<b>26</b>
付属品の確認 .....	26
付属品の取り付け方 .....	27
<b>8. 各部の名前と機能</b> .....	<b>29</b>
<b>9. 基本操作</b> .....	<b>31</b>
<b>10. 受信機能・セットモード・便利な機能について</b> .....	<b>33</b>
<b>11. 保守・参考</b> .....	<b>34</b>
故障とお考えになる前に .....	34
<b>12. 定格</b> .....	<b>37</b>

## ◆◆◆ 使用前のご注意 ◆◆◆

### ■分解しないでください

本機は調整済みです。使用者ができる改造箇所はありません。絶対に分解しないでください。

### ■ご使用上の注意

本機が悪用されないよう、防犯管理には十分ご配慮ください。消防救急通信から知り得た情報を悪用したり、不用意に第三者に漏らしたりすると、電波法違反として罰せられることがありますのでご注意ください。

### ■納入仕様について

本機は納入先に指定された内容に沿って、予め個別にプログラムされています。プログラムによって、受令機が本書に記載のない機能を備えている場合や、本書に記載している機能が受令機に備わっていない場合があります。納入元や製造元には、納入先の指示が無い限り、設定内容を変更する権限はありません。また、使用者自身が仕様を変更することはできません。

### ■受信可能な信号について

本製品は260MHz帯消防救急デジタル無線通信を受信するもので、従来のアナログ方式による消防救急無線通信は受信できません。

### ■温度仕様について

DJ-XF7、DR-XF7Bの充電は0℃～40℃の間で行ってください。この範囲以外では温度保護が働き充電しません。そのような時はエアコンを使うなどで温度を調節してください。窓付近やダッシュボード上など、直射日光が当たる場所は80℃以上になる場合があります。設置時には十分ご配慮ください。

温度範囲	本体	性能保証：-10℃～50℃ / 動作保証：-20℃～60℃
	電池パック	充電：0℃～40℃ / 放電：-20℃～60℃

■耐塵・防浸・振動・衝撃に関する外郭保護について  
携帯型受令機は外郭保護等級IP67規格の耐塵・防浸相当品です。

耐塵：埃や塵が直ちに製品の故障に繋がらない

防浸：特定の条件で、真水が製品内部に浸透しない

ただし、車載キットや充電器などの、特に外郭保護を謳っていないものは、耐塵・防浸ではありません。台風のような風圧や、流水のような水圧が掛かる場合、金属製・油性・酸や塩分・化学物質を含む等の特殊な粉塵や液体に対しては、この外郭保護性能は保証されません。このような物質で濡れたり汚れたりした時は、すぐに乾いた布で拭くなどのメンテナンスを心がけてください。部品に使われている素材は経年変化のために変質し、保護性能が低下します。外郭保護が非常に重要な場合は、定期的な保守点検をお勧めします。携帯型受令機の電池パック装着部付近のシールは絶対に剥がさないでください。耐塵・防浸を保つために必要です。このシールを覆うように別のシールなどを貼らないでください。

振動や衝撃に関しては、下記のようにJISと米軍納入規格MILスペックに準拠した試験に合格していますが、本機を故意に乱暴に扱うことはお止めください。

- ・ JIS (DJ-XF7/DR-XF7B/DR-XF7N)
  - 衝撃: JIS C 60068-2-27
  - 振動: JIS C 60068-2-6
  
- ・ MIL (DJ-XF7)
  - MIL-STD-810G または相当の下位規格
  - Shock: Method 514.6/1,IV
  - Vibration: Method 516.6/1

# 1

## 携帯型受令機を お使いになる前に

### ..... 付属品の確認 .....

本機の標準構成は以下の通りです。納入仕様により異なる場合があります。

- 消防救急デジタル無線用携帯型受令機 DJ-XF7
- アンテナ EA-XF7
- 電池パック EBP-700
- 充電器 EDC-700
- 充電器用ACアダプター EDC-701
- 安全上のご注意 PF0218

本機専用、または弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理になります。また、他社製アクセサリに起因する不具合は、弊社で修理や改造で対応することはできません。

## ..... 付属品の取り付け方 .....

### ■アンテナの取り付け方

アンテナの根元を持って時計回り(右)に回転が止まるまで回します。外すときは反時計回り(左)に回します。

※緩みがないか、時々確認してください。



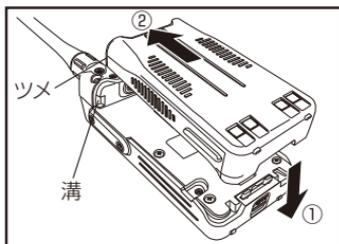
・アンテナ側のコネクター形状は  
参考 TNC-P型です。



### ■電池パックの取り付け / 取り外し

#### ●電池パックの取り付け方

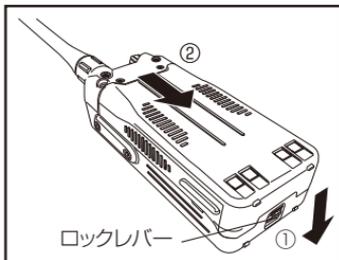
電池パックのツメを本体の溝に合わせて、電池パックを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで押し込みます。



#### ●電池パックの取り外し方

本体のロックレバーを押して電池パックを矢印の方向にスライドさせて取り外します。

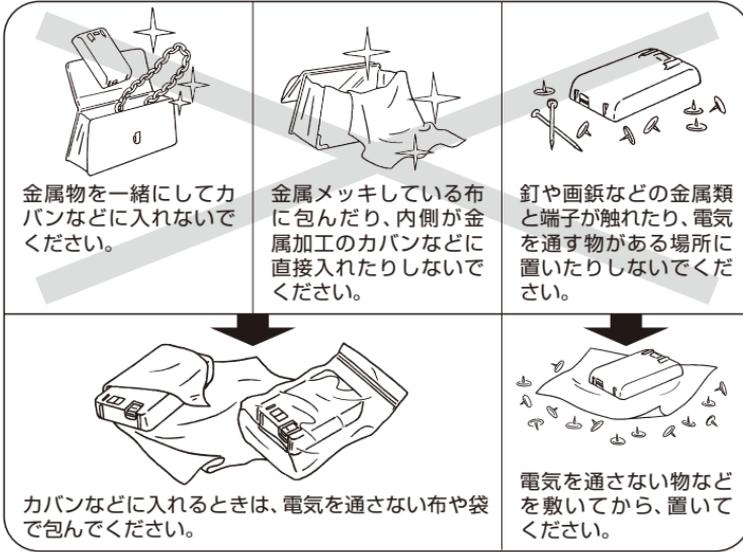
※スライドさせる際は、指や爪などを傷めないよう、十分に注意してください。



・本機は外部電源での使用ができません。電池パックの持ちに不安がある時はスペアの電池パックをご用意ください。

## ■電池パックの取り扱いについて

 電池パックを持ち運ぶときは、十分ご注意ください。ショートによって電流が急増し、発熱、発火、火傷の原因となることがあります。



### 注意

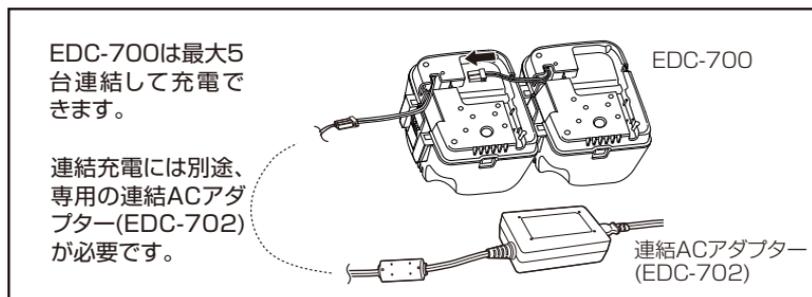
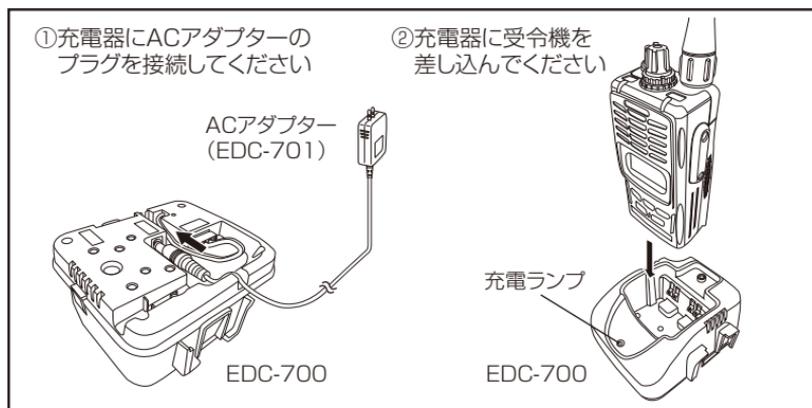
- ・電池パックは出荷時には十分に充電されておりません。満充電してからお使いください。
- ・充電は0℃～40℃の温度範囲内で行ってください。この範囲を外れると、充電できないことがあります。
- ・電池パックの改造、分解、火中・水中への投入は絶対にしないでください。発熱・破裂などの可能性があり、大変危険です。
- ・電池パックの端子は絶対にショートさせないでください。機器の損傷や、発熱による火傷の原因となることがあります。
- ・継続的な充電や放電状態での放置は、電池パックの劣化を早める原因になります。
- ・電池パックの保存は、-10℃～45℃の温度範囲で湿度が低く乾燥した場所を選んでください。それ以外の温度や極端に湿度の高い所では、液漏れや金属部分の錆の原因になりますので避けてください。
- ・電池パックは消耗品です。所定の時間充電しても使用時間が著しく短い場合は寿命がきたものと思われまます。新しいものにお取替えてください。
- ・電池パックはリサイクル資源です。再利用しますので、廃棄しないで電池パック回収協力店へご持参ください。

携帯型

## ■電池パックの充電方法

充電器とACアダプターを接続して電池パックを充電します。

**注意** 購入直後、または長期間使用しなかったときは、満充電してからお使いください。専用充電器でしか充電できません。



充電を開始すると充電器の充電ランプが赤色に点灯し、充電が完了すると緑色に点灯します。充電時間は、空の電池パックを満充電する場合、約4時間です。

 この電池パックは継ぎ足し充電や、充電器に載せて充電しながらの受信参考ができます。また、スペアの電池パックだけを充電することもできます。

## 電池パックの性質と取り扱いについて



参考

- ・電池パック (EBP-700) はリチウムイオン充電電池 (Li-Ion 充電電池) です。Li-Ion 電池の理想的な使い方は、「毎日使って、電池を充放電させる」で、常に充電電流を流していると早く消耗し、放電状態で長期間放置すると充電ができなくなります。このため予備の電池を備蓄されるときは、全ての電池をローテーションさせて日々実用するほうが効果的です。(Li-Ion 電池の保存は定格電圧を保つことが重要で、50%程度の充電状態がこの目安になります。)
- ・Li-Ion 電池は理想的に使っても、3年で約30%程度の容量は消耗する性質があります。

注意

- ・本機は電源を切っただけでも待機電流によって電池残量が減少します。長期間使用しない場合はご注意ください。
- ・寒冷状態では、電池パックが一時的に不活性化して使用できなくなることがあります。保温にご留意ください。
- ・本体、充電器、電池パックは、手垢や埃が付き易いので、時々清潔で乾いた布やOA機器清掃用ブラシ等で清掃してください。汚れていると接触不良からくる充電トラブルの原因となることがあります。
- ・電池パック (EBP-700) は対応する製品専用の電池です。純正の専用充電器以外の物で充電を試みることは絶対におやめください。
- ・電池の状態を感知して動作するセキュリティ機能が働くと設定にプログラムされている場合、電池パックの使い方に制限があります。この場合は通信機器担当者様の説明に従って運用してください。
- ・充電器の充電ランプが赤色、または緑色に点滅を繰り返すときは、保護回路が働いているか、故障しています。保護回路の誤動作も起こり得ますので、異常と即断される前に充電ランプが何色に点滅しているかを確認してください。

赤色に点滅	充電器から受令機を取り外して、目視で機器の異常や汚れがないか確認してください。汚れていれば清掃してください。
緑色に点滅	電池パックの温度に異常がないか確認してください。この電池パックは 0℃～40℃の範囲でしか充電できません。

最後に、電池パックだけを充電器に載せて充電が始まるかどうかを確認してください。それでも正常な動作に戻らなければ、点検にお出ください。

# 2

## 各部の名前と機能

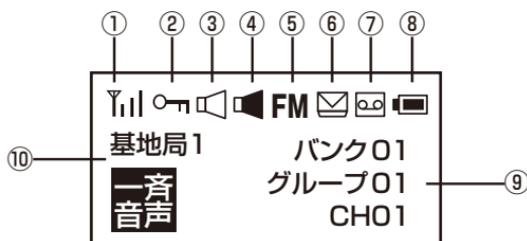
※本書中、「長く押し」「長押し」は、説明する動作が始まるまでキーを押したままにすることを表します。「押し」はしっかりとキーを一度押してから、すぐに指を放すことを表します。

### ■本体



キー名称	機能
バンド	本書中「バンド」キーを押す(※P.14)を参照してください。
機能	「機能」キーを押すとメニューを開きます。メニュー画面で押すと、その項目を選択します。また、初期画面で長押しするとキーロックを設定します。再度長押しするとキーロックを解除します。
戻る	メニュー画面等ではひとつ前の画面に戻ります。
▲/▼	メニュー表示時にカーソルを上下に移動します。

## ■ディスプレイ表示



説 明		
①		受信した電波の強さを三段階で表示します。 電波がないときは「」だけを表示します。
②		キーロック設定時に表示します。
③		内蔵スピーカー有効時に表示します。
④		外部イヤホン有効時に表示します。
⑤	<b>FM</b>	FM ラジオ機能有効時に表示します。
⑥		未読のショートメッセージがある場合に表示します。
⑦		未聴の録音データがある場合に表示します。
⑧		電池残量を三段階で表示します。 残量が少ないときは「」を表示します。
⑨	バンク01 グループ01 CH01	上から順にチャンネルバンク名(または発信規制情報)、 グループ名、チャンネル名を表示します。
⑩	基地局1 	発信元の名前や、受信の種類を表示します。

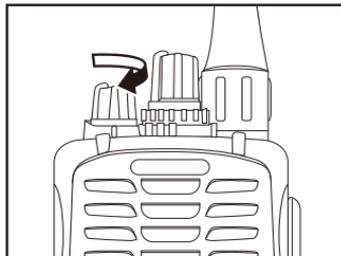
※機能は納入仕様によって変更、または削除されている場合があります。

# 3

## 基本操作

### ■電源を入れる/切る

電源/音量つまみを時計回り(右)に回して電源を入れます。電源を切るときは、反時計回り(左)に回転が止まるまで回します。



### ■音量を調整する

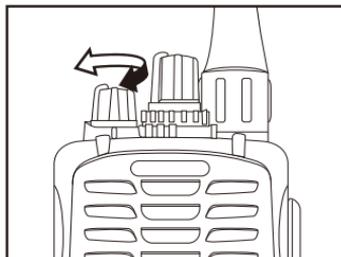
電源/音量つまみを時計回り(右)に回して音量を大きくします。音量を小さくするには反時計回り(左)に回します。

イヤホンで聞くときは音量を最小にしてから、調整を始めてください。



参考

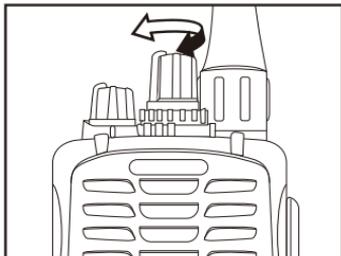
・目安になる信号がないときはFMラジオ(※P.22)を受信しながら電源/音量つまみを調整すると適切に設定できます。



### ■チャンネルを切り替える

ロータリースイッチを回すと、CHバンク選択(※P.19)で選択しているバンク内のチャンネルを順次切り替えます。最大16チャンネル※を切り替えられます。

※納入仕様により、チャンネルスキャン機能を割り当てた場合、最大15チャンネルとなります。この場合、反時計回り(左)に回転が止まるまで回すと、チャンネルスキャン(※P.24)を開始します。

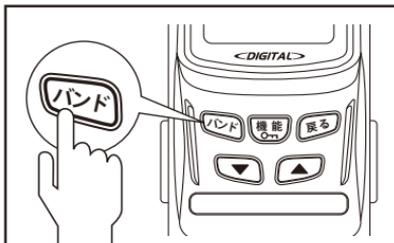


## ■「バンド」キーを押す

納入仕様により、機能が異なる場合があります。

### 仕様①

押すたびに基地局受信と他移動局受信を切り替えます。長く押すとバンドスキャンに切り替えます。バンドスキャンとは、基地局受信と他移動局受信を交互にスキャンして信号が出ているバンドに切り替える機能です。再度長押しすると、バンドスキャンを中止します。バンドスキャン中は、バンドインジケータが青色と橙色に交互に点灯します。



### 仕様②

押すたびにチャンネルバンクを切り替えます。

## ■音声を受信する

音声信号を受信すると、受信インジケータが緑色に点灯し、受信した信号レベルに応じてディスプレイに「」アイコンを表示します。この時、受信条件<sup>※</sup>を満たしていると音声聞こえます。

## ■ショートメッセージを受信する

ショートメッセージ信号を受信すると、受信インジケータが緑色に点灯し、受信した信号レベルに応じてディスプレイに「」アイコンを表示します。この時、受信条件を満たしているとショートメッセージを受信します。

## ■設定を変更する

設定を変更するには、「機能」キーを押してセットモード(☞P.18)を開きます。設定を変更したい項目を「▼」キーまたは「▲」キーで選択し、「機能」キーで決定してください。

### ※受信条件について

送信を行う局がグループ通信機能などを使い、特定の局と通信を行う場合、自局がその対象でなければ受信できません。

# 4

## 受信機能

受信バンドを切り替え(☞P.14)て、どの局から信号を受信するかを決めます。

**基地局受信**：基地局からの音声、他移動局から基地局を経由した音声、ショートメッセージ、発信規制信号を受信します。

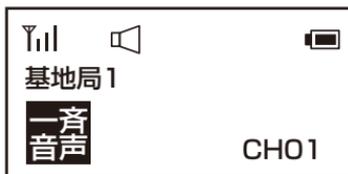
**他移動局受信**：他移動局から送信された音声を直接受信します。

**バンドスキャン**：基地局受信と他移動局受信を交互に切り替えます。

### ..... 音声受信 .....

基地局または他移動局からの音声を受信すると、次のように動作します。

- ①受信インジケータが緑色に点灯します。
- ②ディスプレイに「一斉」「音声」文字を表示します。
- ③発信元の名称を表示します。  
※発信元の装置情報が本機に登録されていない場合は、発信者番号を表示します。
- ④スピーカーから受信した音声を鳴らします。

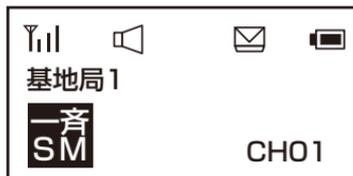


参考

デジタル通信は、アナログ通信に比べてフェージングの影響を受けやすく、走行中の車両からの通信などは途切れて聞こえがちになる事があります。

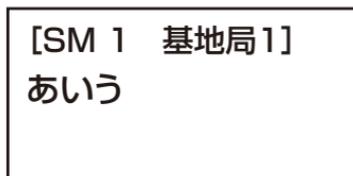
## …… ショートメッセージの受信 ……

基地局または他移動局からショートメッセージを受信すると、次のように動作します。



- ①受信インジケーターが緑色に点灯します。
- ②ディスプレイに「一斉」「SM」文字を表示します。
- ③発信元の名称を表示します。  
※発信元の装置情報が本機に登録されていない場合は、発信者番号を表示します。
- ④「ピポッ」という音が鳴り、ショートメッセージを受信し終わったことを知らせます。

SM自動表示(☞P.21)をオンに設定すると、受信したショートメッセージを自動的にディスプレイに表示します。受信したメッセージがディスプレイに納まらなかった場合は、ディスプレイ右側に表示の続きがあることを示す「▼」マークを表示します。続きのメッセージを表示するには、「▼」キーを押して、画面をスクロールします。



受信したショートメッセージはSM履歴(☞P.22)に保存されます。



## ..... 発信規制信号 .....

基地局から発信規制信号を受信すると、次のように動作します。



- ①受信インジケータが緑色に点灯します。
- ②ディスプレイに規制情報を表示します。

※規制情報によってはディスプレイに表示されないものがあります。

- ③規制情報に対応したブザーやチャイムの喚起音を鳴らします。

携帯型

発信規制情報	情報詳細	ディスプレイ表示	喚起音
出動指令	火災出動	あり	警報ブザー (ファーウー)
	救急出動	あり	救急車サイレン (ピーポーピーポー)
	救助出動	あり	警報音 (ピロロン)
	連絡	あり	チャイム (ピンポンパンポン)
通信規制	発信規制	あり	アラーム (ブーウッブーウッ)
緊急信号	緊急信号	なし	仕様による
強制切断	強制切断	なし	非常ベル (ピポピポピポピポン)



参考

- ・自動録音 (※P.21) をオンに設定すると、次の条件において発信規制中に送信された音声を録音します。
- ・出動指令情報を受信した時
- ・通信規制情報を受信した時

## 5

## セットモード

## ..... セットモード一覧 .....

運用設定	CHバンク選択	最大16チャンネル			
	グループ設定	グループモード	シングル	マルチ	
		グループ選択	シングルモード	最大62グループ	
マルチモード	最大62グループ				
録音開始/停止					
機能設定	スピーカー設定	内蔵スピーカー 外部イヤホン	内蔵+外部 自動切替		
	CHスキャン設定	タイマー	ビジー		
	自動機能設定	SM自動表示	オン	オフ	
		自動録音	オン	オフ	
	操作音設定	オフ	レベル1~レベル5		
	ディスプレイ	LCDライト	オフ	オン	5秒
キーライト		オフ	オン	5秒	
コントラスト		レベル1~レベル10			
履歴表示	SM履歴	最大10件			
	録音履歴	最大10件			
	履歴消去	SM履歴消去	消去する	消去しない	
		録音履歴消去	消去する	消去しない	
FMラジオ	ラジオON/OFF	オン	オフ		
	選局	TUNING	65MHz~89.9MHz		
		プリセットチャンネル(最大6件)			
	ボリューム	レベル1~レベル3			
	スケルチ	オープン	レベル1~レベル5		
情報表示	装置情報	受令機情報 他局情報0001~他局情報1023			
	団体情報	団体情報0000~団体情報1023			

..... 運用設定 .....

■CHバンク選択

ロータリースイッチに設定しているチャンネルを、バンク単位で切り替えます。

本機はバンクを16個持っており、1つのバンクには最大16チャンネル登録できます。CHバンク選択画面には、登録されているバンクしか表示されません。選択中のバンクは「◎」マークによって示されます。

■グループ設定

本機に登録されているグループ番号から、受信するグループを選びます。

・グループモード

シングル：シングルモード有効時、選択した1つのグループから受信します。  
マルチ：マルチモード有効時、選択した全てのグループから受信します。

・グループ選択

シングルモード：受信するグループをどれか1つ選びます。選択中のグループは「◎」マークによって示されます。  
マルチモード：受信するグループを複数選びます。選択中のグループは「○」マークによって示されます。

..... 録音開始 / 停止 .....

受信した音声を録音します。録音するには、あらかじめセットモードから録音開始 / 停止を選択、決定しておきます。録音中はディスプレイに「」アイコンが点滅します。録音機能を停止するには再度、録音開始 / 停止を選択、決定します。未聴の録音がある場合、「」アイコンが点灯します。録音は1件につき60秒まで、自動録音（※P.21）と合わせて10件保存します。

## 機能設定

## ■スピーカー設定

受信した音声や各種警告音を、どこから鳴らすか選びます。

**内蔵スピーカー**：内蔵スピーカーから鳴らします。ディスプレイ上部には「」アイコンを表示します。

**外部イヤホン**：外部イヤホン(オプション)から鳴らします。ディスプレイ上部には「」アイコンを表示します。

**内蔵+外部**：内蔵と外部両方から鳴らします。ディスプレイ上部には「 」アイコンを表示します。

**自動切替**：オプションのイヤホンをつなぐと自動で認識して、それだけを鳴らします。通常は内蔵スピーカーが鳴ります。

## 注意

- ・本機から音が出ないときは、故障を疑う前に上記設定をチェックしてください。
- ・「内蔵+外部」に設定すると、「内蔵スピーカー」、または「外部イヤホン」に設定した場合と比べて音量が下がりますが、故障ではありません。
- ・車載キット搭載時は、設定項目が「内蔵スピーカー」および「外部スピーカー」のみとなります。

**内蔵スピーカー**：車載キット内蔵スピーカーから鳴らします。ディスプレイ上部には「」アイコンを表示します。

**外部スピーカー**：外部スピーカーから鳴らします。別途スピーカーの取り付け(※P.30)が必要です。ディスプレイ上部には「」アイコンを表示します。

## ■CHスキャン設定

チャンネルスキャン(※P.24)停止後の、スキャン再開条件を選びます。

**ビジー**：受信している信号がなくなればスキャンを再開します。

**タイマー**：信号があっても設定した時間が経過するとスキャンを再開します。初期値は5秒です。

## ■自動機能設定

### ・SM自動表示

オン：ショートメッセージを受信したとき、自動的に受信したメッセージをディスプレイに表示します。

オフ：ショートメッセージを受信しても自動表示は行いません。

ディスプレイ上部に未読メッセージがあることを示す「」アイコンを表示します。

### ・自動録音

オン：発信規制情報のうち、出勤指令と通信規制の情報を受信した時、自動的に録音状態となり、受信した音声を録音します。

オフ：自動録音しません。この設定に関係なく、録音開始/停止(※P.19)で録音を開始していると、受信した音声を録音します。録音は1件につき60秒まで、10件保存します。古い録音は自動的に消去され、新しい録音に置き換わります。

## ■操作音設定

キー操作をした時や起動した時、受信した時に出る音をピープ音と呼びます。ピープ音の音量はオフ、レベル1～レベル5の間で設定できます。レベル5が音量最大です。オフだとピープ音は鳴りませんが、喚起音(※P.17)は鳴ります。

## ■ディスプレイ

バックライトの点灯時間や、ディスプレイのコントラストを設定します。

### ・LCDライト、キーライト

オフ：バックライトは常時消灯します。

オン：バックライトは常時点灯します。(電池が早く減るのでご注意ください。)

5秒：バックライトはキー操作、またはチャンネルを切り替えてから5秒間だけ点灯します。

### ・コントラスト

コントラストはレベル1～レベル10の間で設定できます。

値が大きくなる程、文字が濃くなります。

## 履歴表示

## ■ SM履歴

ショートメッセージの履歴を最新のものから最大10件表示します。10件を超えた分は古いものから消去されます。未読のメッセージには「!」マークを表示します。

## ■ 録音履歴

録音履歴を最新のものから最大10件表示します。10件を超えた分は古いものから消去されます。「▼」キーまたは「▲」キーを押して履歴を選択、「機能」キーで決定すると録音を再生します。再生中に「機能」キーを押すと再生を中止します。未読のメッセージには「!」マークを表示します。

## ■ 履歴消去

- ・ SM履歴消去 消去する：ショートメッセージの履歴を全て消去します。  
消去しない：何も消去しません。
- ・ 録音履歴消去 消去する：録音履歴を全て消去します。  
消去しない：何も消去しません。

## FMラジオ

## ■ ラジオ ON/OFF

「オン」を選択するとFMラジオを受信します。受信中はディスプレイに「FM」アイコンを表示します。

## ■ 選局

TUNING：受信したい局を、「▼」キーまたは「▲」キーを押して選局します。受信できる周波数は65MHz～89.9MHzで、受信モードは放送用ワイドFM専用<sup>\*</sup>です。

プリセットチャンネル：納入仕様によって異なります。  
詳細は通信機器担当者様にご確認ください。

## セットモード

※条件によっては通信用ナローFMも聞こえる事がありますが、音質、音量、感度、選択度等の性能は著しく劣るため実用レベルではありませんし、ナローFM用にチャンネルステップを変更することはできません。

### ■ボリューム

音量をレベル1～レベル3の3段階から選択します。

「▼」キーまたは「▲」キーを押して適切な音量に調整してください。

### ■スケルチ

スケルチをオープン、レベル1～レベル5の6段階から選択します。

「▼」キーまたは「▲」キーを押して適切なスケルチに調整してください。

## 情報表示

### ■装置情報

本機に登録されている受令機情報、他局情報を表示します。

### ■団体情報

本機に登録されている自他の団体情報を表示します。

# 6

## 便利な機能

### ..... チャンネルスキャン .....

ロータリースイッチにチャンネルスキャン機能が割り当てられているときに動作します。チャンネルスキャンとは、信号を受信できるチャンネルを自動で探して、信号を見つけたチャンネルで受信する機能です。チャンネルスキャンをするには、ロータリースイッチを反時計回り(左)に端まで回します。チャンネルスキャンが開始されるとディスプレイに「スキャン」を表示します。



### ..... キーロック .....

キーロックは誤ってキーが操作されることを防ぐ機能です。初期画面で「機能」キーを2秒以上押すとキーロックが設定され、ディスプレイに「」アイコンを表示します。この状態では電源のオンオフや音量調整、チャンネルの切り替えを除いて、キー操作は何もできなくなります。解除するには、もう一度「機能」キーを2秒以上押して「」アイコンを消します。



### ..... 電池残量アイコン .....

電池残量アイコンは、電池パックの残量を表示します。残量表示が空になっているときは、電池パックを交換するか、充電してください。

-  電池パックの残量が十分にあります。
-  電池パックの残量がまだあります。
-  電池パックの残量が少なくなっています。すぐに充電してください。



## ..... チャンネルストッパー .....

このリングを指で持ち上げて回すことにより、ロータリースイッチの可動域を制限する機能です。ロータリースイッチが不要なチャンネルに切り替わらないように使います。



チャンネルストッパーを解除するには、持ち上げて時計回り(右)に回転が止まるまで回してください。

**注意** 必要以上に強い力でロータリースイッチを回すと、本体の破損を防ぐため、ロータリースイッチとチャンネルストッパーが共に回ることがありますが、故障ではありません。無理に力を掛けず、ストッパーが動作する範囲でお使いください。

# 7

## 車載キットを お使いになる前に

始めに、使用前のご注意(※P.4)をお読みください。電池パック内蔵機種“DR-XF7B”をご使用になる場合は、次の項目も併せてお読みください。

- 電池パックの取り扱いについて(※P.8)
- 電池パックの性質と取り扱いについて(※P.10)

### ..... 付属品の確認 .....

本機の標準構成は以下の通りです。納入仕様により異なる場合があります。

- 携帯型受令機内蔵車載キット DR-XF7B/N
- 安全上のご注意 PF0218
- DCケーブル EDS-20(ヒューズ付き)
- ブラケット
- 六角ネジ(4本)

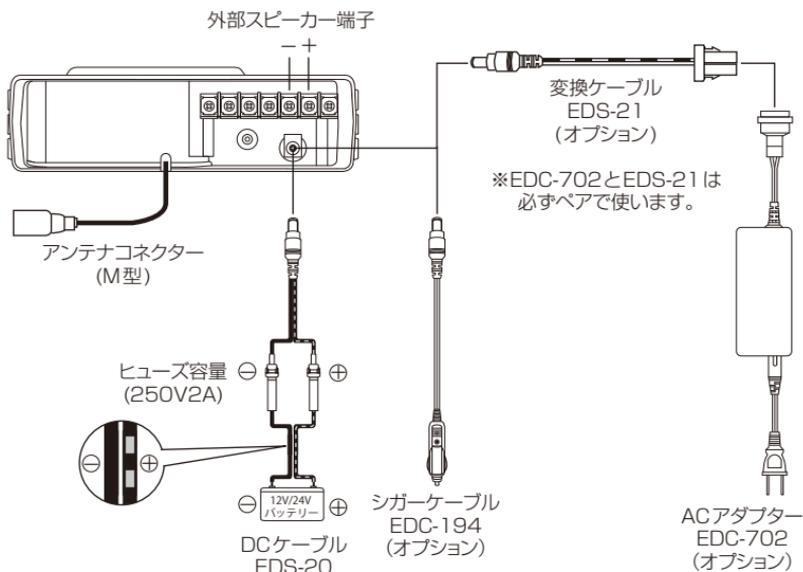
本機専用、または弊社が認めたアクセサリ以外をご使用になって起きた不具合は保証期間の有無を問わず有償修理になります。また、他社製アクセサリに起因する不具合は、弊社で修理や改造で対応することはできません。

## ..... 付属品の取り付け方 .....

### ■電源を接続する

DCケーブルを車のバッテリーに直接接続します。灰色の破線が描かれている線をバッテリーの⊕端子に、ただの黒色の線を⊖端子にそれぞれ接続してください。用途に合わせて別途オプションをご用意ください。

	型番	接続方法
付属品	DCケーブル EDS-20	直接車のバッテリーに(12/24V)に接続するか、相当する直流安定化電源に接続します。
オプション	シガーケーブル EDC-194	車のシガーライターソケットに接続します。
	ACアダプター EDC-702	AC100Vコンセントに接続します。別途変換ケーブル EDS-21が必要です。
	変換ケーブル EDS-21	ACアダプターに接続して使います。

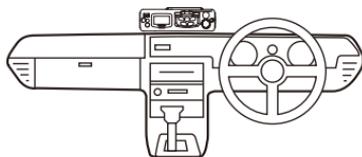
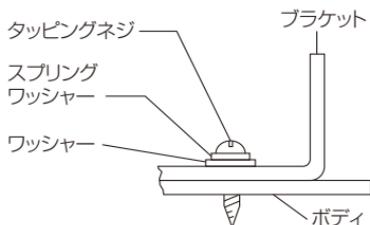


- 注意**・DCケーブルを接続するときは、+プラスと-マイナスの極性を間違えないように注意してください。
- ・DCケーブルのヒューズホルダーは必ず使用してください。
  - ・結線にゆるみがないか、定期的に確認してください。

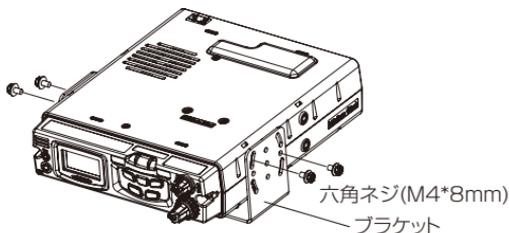
## ■ブラケットを取り付ける

ブラケットを下記手順に従って取り付けます。取り付けには別途ドライバー等の工具が必要です。本製品にはブラケットと本機を止める六角ネジ4本が付属しています。

1. 取り付け場所が安全運転の妨げにならないことを確認する。
2. タッピングネジ、スプリングワッシャー、ワッシャー等を使ってブラケットを車に取り付ける。



3. 付属の六角ネジ4本を使って本機をブラケットに取り付ける。



4. 確実に取り付けられているか確認する。

### 注意

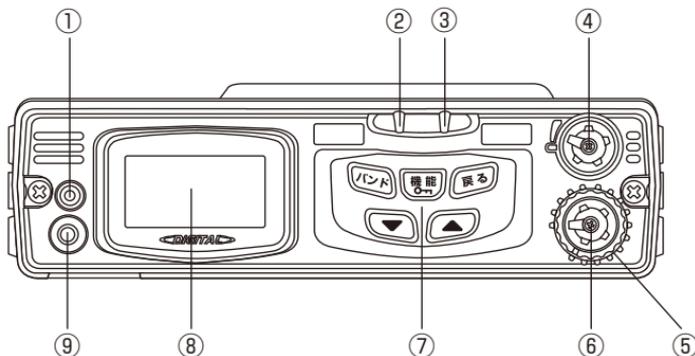
- ・ 取り付け後は、定期的にネジ類に緩みが無いか確認してください。
- ・ 規格外の六角ネジを使うと本機がブラケットから外れたり、故障の原因となります。
- ・ 次のような場所への取り付けは避けてください。
  - ・ ひざが本機にあたる場所や、エアバッグその他自動車の動作に支障を来す場所。
  - ・ ハンドルやレバーなどに引っかかるような場所。
  - ・ 液体や薬剤がかかる場所。

# 8

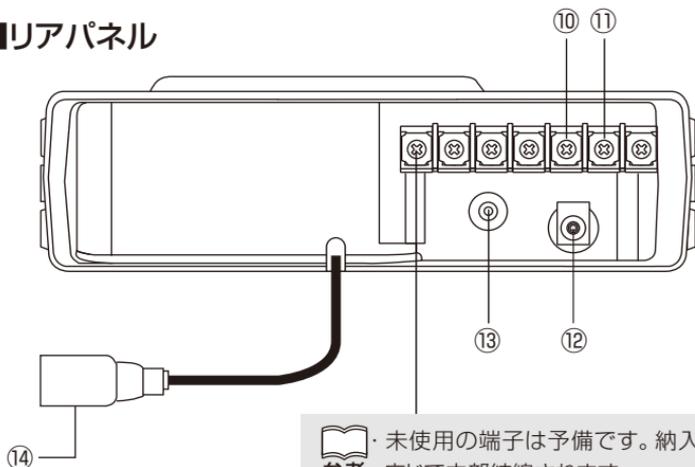
## 各部の名前と機能

※本文中、「長く押し」「長押し」は、説明する動作が始まるまでキーを押したままにすることを表します。「押し」はしっかりとキーを一度押してから、すぐに指を放すことを表します。

### ■フロントパネル



### ■リアパネル



参考 未使用の端子は予備です。納入仕様に  
応じて内部結線されます。

## 各部の名前と機能

説明		
①	予備端子 予備端子には何も挿入しないでください。	
②	バンドインジケータ 青色：基地局受信 橙色：他移動局受信 バンドスキャン中は青色と橙色が交互に点灯します。	
③	受信インジケータ 受信中は緑色に点灯します。	
④	電源 / 音量ツマミ 電源を入れるには時計回り(右)に「カチッ」と音が鳴るまで回します。更に回すと音量を上げます。音量を下げるには反時計回り(左)に回します。更に回転が止まるまで回すと電源を切ります。	
⑤	チャンネルストッパー このリングを指で手前に引きながら回すことにより、ロータリースイッチの可動域を制限する機能です。	
⑥	ロータリースイッチ 左右に回すと、CHバンク選択で選択しているバンク内のチャンネルを順次切り替えます。	
⑦	バンド	本書中「バンド」キーを押す(※P.32)を参照してください。
	機能	「機能」キーを押すとメニューを開きます。メニュー画面で押すと、その項目を選択します。また、初期画面で長押しするとキーロックを設定します。再度長押しするとキーロックを解除します。
	戻る	メニュー画面等ではひとつ前の画面に戻ります。
	▼/▲	メニュー表示時にカーソルを上下に移動します。
⑧	ディスプレイ 本書中「ディスプレイ表示」(※P.12)を参照してください。	
⑨	イヤホン端子 EME-54(オプション)を接続します。	12mW/150Ω
⑩	外部スピーカー端子 外部スピーカーの⊖側を接続します。	2W/8Ω
⑪	外部スピーカー端子 外部スピーカーの⊕側を接続します。	
⑫	DC 端子 DC電源を接続します。	
⑬	セキュリティ端子 詳細は通信機器担当者様にお尋ねください。	
⑭	アンテナコネクタ(M型) 規格に準拠して製造されたアンテナ(インピーダンス50Ω)を接続します。	

※機能は納入仕様によって変更、または削除されている場合があります。



参考

・本機のアンテナコネクタは汎用性が高く、使いやすいインチ・ミリ両用(M/PL)タイプを採用しています。専用のもので比べて嵌め合いに遊びが感じられますが、異常ではありません。リングが回らなくなるまでしっかり締めてください。

注意

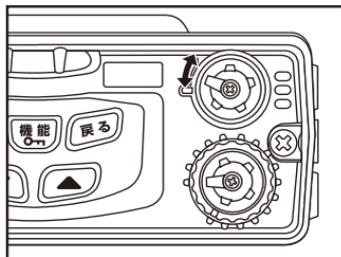
- ・アンテナのインピーダンスは50Ωです。本機とアンテナ、同軸ケーブルのインピーダンスが異なると、受信性能が低下する恐れがあります。
- ・外部スピーカー端子にはインピーダンス8Ωの物を接続してください。
- ・イヤホンを接続すると、内蔵スピーカーと外部スピーカーを自動的にミュートします。

# 9

## 基本操作

### ■電源を入れる/切る

電源 / 音量ツマミを時計回り(右)に回して電源を入れます。電源を切るときは、反時計回り(左)に回転が止まるまで回します。



### ■音量を調整する

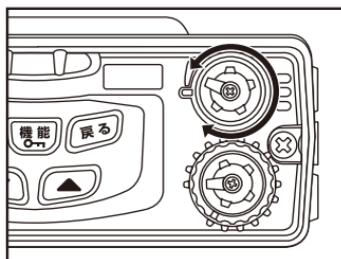
電源 / 音量ツマミを時計回り(右)に回して音量を大きくします。音量を小さくするには反時計回り(左)に回します。

イヤホンで聞くときは音量を最小にしてから、調整を始めてください。



参考

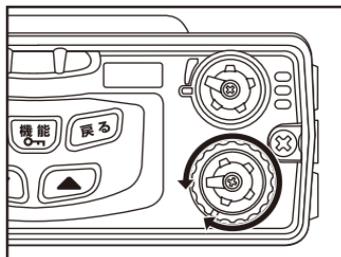
・目安になる信号がないときはFMラジオ(※P.22)を受信しながら電源 / 音量ツマミを調整すると適切に設定できます。



### ■チャンネルを切り替える

ロータリースイッチを回すと、CHバンク選択(※P.19)で選択しているバンク内のチャンネルを順次切り替えます。最大16チャンネル※を切り替えられます。

※納入仕様により、チャンネルスキャン機能を割り当てた場合、最大15チャンネルとなります。この場合、反時計回り(左)に回転が止まるまで回すと、チャンネルスキャン(※P.24)を開始します。

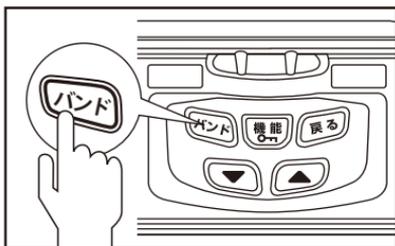


### ■「バンド」キーを押す

納入仕様により、機能が異なる場合があります。

#### 仕様①

押すたびに基地局受信と他移動局受信を切り替えます。長く押すとバンドスキャンに切り替えます。バンドスキャンとは、基地局受信と他移動局受信を交互にスキャンして信号が出ているバンドに切り替える機能です。再度長押しすると、バンドスキャンを中止します。バンドスキャン中は、バンドインジケータが青色と橙色に交互に点灯します。



#### 仕様②

押すたびにチャンネルバンクを切り替えます。

### ■音声を受信する

音声信号を受信すると、受信インジケータが緑色に点灯し、受信した信号レベルに応じてディスプレイに「」アイコンを表示します。この時、受信条件<sup>\*</sup>を満たしていると音声聞こえます。

### ■ショートメッセージを受信する

ショートメッセージ信号を受信すると、受信インジケータが緑色に点灯し、受信した信号レベルに応じてディスプレイに「」アイコンを表示します。この時、受信条件を満たしているとショートメッセージを受信します。

### ■設定を変更する

設定を変更するには、「機能」キーを押してセットモード(18P.18)を開きます。設定を変更したい項目を「▼」キーまたは「▲」キーで選択し、で選択し、「機能」キーで決定してください。

#### ※受信条件について

送信を行う局がグループ通信機能などを使い、特定の局と通信を行う場合、自局がその対象でなければ受信できません。

# 10

## 受信機能・セットモード・ 便利な機能について

これらの機能は携帯型受令機と同じです。各ページをご参照ください。

- 受信機能 (P.15)
- セットモード (P.18)
- 便利な機能 (P.24)

# 11

## 保守・参考

..... 故障とお考えになる前に .....

保守点検をご依頼になる前に、一度ご確認ください。

### ■ 携帯型受令機

症状	原因	処置
電源を入れても、ディスプレイに何も表示されない。	電池パックの端子が接触不良を起こしている。	端子の汚れを清潔で乾いた布や綿棒で取り除く。
	電池残量が少ない。	電池パックを充電する。
スピーカーから音が出ない。	音量が小さすぎる。	適切な音量に設定する。
	スピーカー設定が適切でない。	適切な設定に変更する。
受信中に表示が点滅したり消えたりする。	電池残量が少ない。	電池パックを充電する。
チャンネルが切り替わらない。	チャンネルストッパーが設定されている。	チャンネルストッパーの設定を変更する。
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
異常な表示になっている。	CPUが誤動作している。	電源を入れ直す。
充電しない。	充電端子が汚れている。	充電端子の汚れを清潔で乾いた布や綿棒で取り除く。
充電器の充電ランプが赤色、または緑色に点滅する。	充電保護回路が動作している。	本書中“電池パックの性質と取り扱いについて”を参考に対処する。
受信できない。	電波が弱い。	電波が強い所へ移動する。
	チャンネルが合っていない。	チャンネルを合わせる。

## ■ 携帯型受令機内蔵車載キット

症状	原因	処置
電源を入れても、ディスプレイに何も表示されない。	接触不良により、電源の供給が出来ていない。	プラグ等の汚れを清潔で乾いた布や綿棒で取り除く。
	DCケーブルの極性を逆に接続している。	本書中“電源を接続する”を参考に正しく接続する。
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を除いた後、指定容量(250V2A)のヒューズと交換する。
異常な表示になっている。	CPUが誤動作している。	電源を入れ直す。
スピーカーから音が出ない。	音量が小さすぎる。	適切な音量に設定する。
	スピーカー設定が適切でない。	適切な設定に変更する。
	イヤホンが接続されている。	イヤホンを抜き取る。
チャンネルが切り替わらない。	チャンネルストッパーが設定されている。	チャンネルストッパーの設定を変更する。
キーによる操作ができない。	キーロックが設定されている。	キーロックの設定を解除する。
受信できない。	電波が弱い。	電波が強いところに移動する。
	チャンネルが合っていない。	チャンネルを合わせる。
	アンテナが接続されていない。	アンテナを接続する。

## ■保守・点検について

- ・使用方法、保守・点検などアフターサービスに関するお問い合わせは、まず、本製品を管理される自治体組織の通信機器担当者様にご相談ください。弊社営業所に直接お電話頂きましても、納入時の設定や保守契約の内容など、すぐに分かりかねることがあるためです。ご理解の程、お願い致します。
- ・管理上大きな支障を来しますので、全ての銘板、ラベル類は絶対に剥がしたり、貼り替えたり、意図的に汚したり、印字を消したりしないでください。

## ■修理について

- ・修理依頼は自治体組織の通信機器担当者様を通じて、納入元に依頼してください。
- ・修理用部品の最低保有年数は、製造終了後9年です。従って保守・修理対応期間も9年となっております。
- ・保守や点検の対応期間を超えた場合は、同等品との有償交換や、お買い換えのご案内をさせていただきます。

12

## 定格

※記載の無い事項についても共通仕様書に準拠しています。

## 携帯型仕様

## ■一般仕様

受信周波数	260MHz帯 消防救急無線周波数
周波数ステップ	6.25KHz
アクセス方式	SCPC
無線変調方式	$\pi/4$ シフトQPSK
変調伝送速度	9.6kbps
音声符号化速度	6.4kbps
受信内容	音声/ショートメッセージ/データ
空中線インピーダンス	50 $\Omega$ 不平衡
電源電圧 (EBP-700)	7.4V DC
消費電流	待受時 : 0.2A以下 受信最大出力時 : 0.6A以下
電池使用時間(*1)	8時間以上/3時間以上 (最大音量時)
外形寸法	H 126mm × W 58mm × D 43mm
質量	245 g以下 (本体のみ)
温度範囲	性能保証 : -10℃ ~ 50℃ 動作保証 : -20℃ ~ 60℃
湿度範囲	95%以下 (35℃)
防水性	IP67
対環境性	RoHS適合

(\*1) 受信1 : 待受19の繰り返し

## ■電気的特性

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式	
中間周波数	第一 : 21.7MHz 第二 : 455KHz	
受信感度	スタティック (BER=1×10 <sup>-2</sup> ) : 0dB $\mu$ V以下 フェージング (BER=3×10 <sup>-2</sup> ) : 5dB $\mu$ V以下	
スプリアスレスポンス	53dB以上	
隣接チャンネル選択度	42dB以上	
相互変調特性	53dB以上	
副次発射強度	4nW以下	
筐体輻射	4nW以下 (1GHz以下) 20nW以下 (1 ~ 3GHz)	
音声出力	内蔵スピーカー	1W以上/8 $\Omega$ (最大音量時)
	外部イヤホン	12mW以上/150 $\Omega$ (最大音量時)

## ■参考

充電時間 EBP-700 (1620mAh)	約4時間 (放電状態⇒充電完了)
FMラジオ受信周波数(*2)	65MHz~89.9MHz

(\*2) チャンネルステップは100KHz、モードはワイドFM固定

## 車載キット仕様

### ■一般仕様

受信周波数	260MHz帯 消防救急無線周波数
周波数ステップ	6.25KHz
アクセス方式	SCPC
無線変調方式	$\pi/4$ シフトQPSK
変調伝送速度	9.6kbps
音声符号化速度	6.4kbps
受信内容	音声/ショートメッセージ/データ
空中線インピーダンス	50 $\Omega$ 不平衡
電源電圧	12～28V DC
消費電流	待受時 : 250mA 以下 (電池バック充電動作時 最大400mA) 受信最大出力時 : 500mA 以下 (電池バック充電動作時 最大600mA)
アンテナコネクタ	M型
DC 入力端子	JEITA 規格 RC-5322
データ通信端子/ イヤホン端子 (兼用)	$\Phi$ 3.5 ステレオジャック (PC 接続ケーブルERW-7 専用)
セキュリティ端子	$\Phi$ 2.5 ステレオジャック
外部スピーカ端子	弱電端子盤
外形寸法	H 50mm x W 172mm x D 203.5mm(突起物含まず)
質量	1300g 以下
温度範囲	性能保証 : -10 $^{\circ}$ C ~ 50 $^{\circ}$ C 動作保証 : -20 $^{\circ}$ C ~ 60 $^{\circ}$ C
湿度範囲	95% 以下 (35 $^{\circ}$ C)
対環境性	RoHS 適合

### ■電気的特性

受信方式	ダブルスーパーヘテロダイン方式
中間周波数	第一 : 21.7MHz 第二 : 455KHz
受信感度	スタティック (BER=1 $\times$ 10 <sup>-2</sup> ) : 0dB $\mu$ V 以下 フェージング (BER=3 $\times$ 10 <sup>-2</sup> ) : 5dB $\mu$ V 以下
スプリアスレスポンス	53dB 以上
隣接チャンネル選択度	42dB 以上
相互変調特性	53dB 以上
副次発射強度	4nW 以下
筐体輻射	4nW 以下 (1GHz 以下) 20nW 以下 (1 ~ 3GHz)
音声出力	2W 以上 (音量最大時)

### ■参考 (DJ-XF7Bのみ)

電池使用時間の目安(*1)	満充電時に停電などによって外部電源の供給が絶たれた状態で約5時間使用できます。
---------------	---

(\*1)受信1 : 待受19の繰り返し